

\*\*\*\*\*  
ジオ・ラボ ネットワーク通信 2018.11 第 58 号  
\*\*\*\*\*

全国地質調査業協会連合会 ジオ・ラボ ネットワーク事務局：北海道士質試験協同組合

- ・北海道士質試験協同組合
- ・協同組合土質屋北陸
- ・関東土質試験協同組合
- ・中部土質試験協同組合
- ・協同組合関西地盤環境研究センター
- ・協同組合岡山県土質試験センター
- ・協同組合島根県土質技術研究センター
- ・協同組合広島県土質試験センター
- ・宮崎県地質調査業協同組合

なお、記事に関するお問い合わせは各組合へお願ひいたします。

\*\*\*\*\*

## [活動状況]

### ジオ・ラボネットワーク事務局

<http://www.geolab-net.com/>

#### ○ジオ・ラボネットワーク経営懇談会・臨時会を開催

10月26日（金）全地連事務局の会議室にて、全国の土質試験協同組合の関係者が集い、経営懇談会が開催され、様々な課題について活発な議論が交わされました。概要は以下の通りです。

##### (1) 各協同組合の平成30年度上半期の運営状況について

各地域の受注環境、実績、対策等について詳細に報告されました。

##### (2) ジオ・ラボネットワークの運用について

全地連フォーラム（高松）、地盤工学研究発表会でのブース展示、第7回技術研修会（大阪開催）についての報告に続き、土質試験管理者認定試験、土質試験品質確保機構規約、地質調査技士受対策、次年度活動行事等について協議が行われました。

##### (3) 全地連からの連絡事項について

一般財団法人国土地盤情報センター、第9回地質リスクマネジメント事例研究会、次年度技術フォーラムについて報告されました。  
(文責:折笠 章)

### 中部土質試験協同組合

mail to : [info@geolabo-chubu.com](mailto:info@geolabo-chubu.com)

#### ○中部地方整備局 港湾空港部 若手技術職員向けの設計研修（地盤材料試験編）に協力しました。

2年毎に開催している港湾関係の設計研修のカリキュラムに、地盤材料試験に関する研修が組み込まれている。今回は、地盤材料試験結果の適用方法に主眼をおき、実体験を含む研修に協力した。

##### (1) 開催日：平成30年10月2日(火)（参加者9名、引率者3名の計12名）

##### (2) 開催場所：中部土質試験協同組合

##### (3) 地盤材料試験の主たる講義内容（1.0h）

- ・土の分類、コンシステンシーの解釈、利用方法
- ・代表的な土質試験の方法と得られた結果の理解
- ・港湾関係の「導出値」から「特性値」の算定方法
- ・土層区分の設定方法と留意点
- ・原位置試験、試料採取のための現場監督の注目点

##### (4) 地盤材料試験実習（2.0h）

- ・試料抜出し、物理試験、圧密試験
- ・供試体作成～一軸試験、三軸試験、動的試験
- ・材料試験（締固め、CBR）、岩石試験、大型三軸



（一軸圧縮試験実習状況）

#### ○第35回臨時総会（平成30年10月16日～17日）を開催しました。

今年の臨時総会に伴う見学先は、1991年（平成3年）6月3日16時8分に発生した火砕流で大規模な人的被害（死者40人、行方不明者3人、負傷者9人、建物被害179棟）をもたらした長崎県の雲仙普賢岳の災害遺構でした。総勢13名で見学してきたが、時速100kmという高速で高熱を伴う火砕流が流下してくる恐怖を災害館で体験し、災害の多い我が国土を改めて認識した。

（文責：坪田邦治）

\*\*\*\*\*  
ジオ・ラボ ネットワーク通信 2018.11 第 58 号  
\*\*\*\*\*

協同組合関西地盤環境研究センター

mail to : [geoinfo@ks-dositu.or.jp](mailto:geoinfo@ks-dositu.or.jp)

「平成 30 年度地盤調査・試験演習に関する技術講習会」開催  
当センターを会場として、公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター主催の講習会が 10 月 19 日に開催されました。

本講習会は、兵庫県と県下の市町村職員の方々を対象に、土木系技術職員としての基本知識を習得し、実務能力の向上をはかることを目的に企画されたもので、(一社) 関西地質調査業協会が技術研修とボーリング調査研修を、当センターが土質試験研修を担当しました。

今回で 7 回目の開催で、今年度も好評をいただきました。今後とも、土質試験講習会・見学会など情報発信基地としての役割を担っていきたいと思います。



(文責 : 森 辰義)

協同組合広島県土質試験センター

mail to : [office@hiroshima-soil.jp](mailto:office@hiroshima-soil.jp)

**(1) エラストメータを譲渡しました**

当組合で保有している孔内水平載荷試験装置（エラストメータ 2）は近年貸出頻度が減少していること、機械操作に習熟した担当者がいないことなどから、理事会で協議した結果、組合員 4 社（第一コンテク（株）、中国開発調査（株）、中国地下工業（株）、（株）ヒロコン）に譲渡し、他の組合員がエラストメータを使用する場合は、この 4 社に委託することになりました。

**(2) 試験室を LED 化しました**

1 階試験室 (233 m<sup>2</sup>) の蛍光灯をすべて LED 化し、同時に 37 年來の埃でくすんだ天井を白色に塗装しました。この結果試験室が見違えるように明るくなり、省エネ効果もはっきり出てきました。この他にも錆び付いた鉄骨なども塗装し建物関係のリニューアルは一段落つきました。今後は古くなつた冷暖房機を順次交換していく予定です。

(文責 : 村田 明)

## 【土質試験品質確保機構を立上げ】

土質試験結果の品質確保と土質試験技術者の社会的地位の向上を図ることを目的として『土質試験品質確保機構』を平成 30 年 10 月 26 日に立ち上げました。

本機構の事務所を協同組合関西地盤環境研究センターに置き、西垣 誠 岡山大学特任教授が初代会長に就任いたしました。

本機構の事業としては、①土質試験に関する情報収集、交換及び提供 ②土質試験に関する広報及び宣伝 ③関係機関、関係団体に対する陳情及び提案 ④土質試験管理者相互の協力の仕組みの構築 ⑤土質試験管理者認定試験の実施 等を行うことになりました。

(文責 : 折笠 章)